



OZ Racing

ウルトラレッキエーラ
Ultraleggera

シンプルだけど本格派!!
**“梅本まどかちゃん”が
 理想のホイールを手に入れた**

写真●水川尚由



**格好良くて高性能な
 タイヤ&ホイールに大満足**

「しばらくはノーマルで乗ろうと決めていました。でも、OZジャパンの内山晶弘さんや、ラリーチームのみんなと話していると、市販されているホイールやタイヤを試してみたいという気持ちが強くなってきたんです」と話すのは、タレントでもありラリーでコドラも務める梅本まどかさんだ。

GRガレージ日進竹の山が認定した中古車の86を購入して「大満足です!」と話していた彼女だが、やはりしばらく乗っていると、いろいろとチャレンジしてみたいという気持ちが強くなったようだ。

「お仕事で内山さんと話をしたのがきっかけでした。それからOZレーシングのホイールをいろいろと見せてもらって、ウルトラレッキエーラにすっ

かり魅了されてしまいました。F1で採用されていたホイールデザインを踏襲している市販ホイールって凄いいじゃないですか。実際にホイールを見るとすごく格好いいし。何しろ軽い。すぐに装着することを決めました」と梅ちゃん。

タイヤは、純正リプレスでも良いと思っていたが所属するラリーチームに相談するとディレッツァを薦められたという。「せっかく高性能なホイールを装着するんですから、タイヤも妥協しなくなりました。もしかししたら私には少しもったいないタイヤかもしれません。ディレッツァDZ102を選びました」とのこと。

実際にタイヤ&ホイールをリフレッシュした愛車86を見て「格好いいですよ」と大満足の様子。真っ赤なボディの86に、ウルトラレッキエーラのクリスタルタンカンカラーは、見事にマッチしていた。



今回はホイールにタイヤを組むところから見学した梅ちゃん。「私もやってみたい」と興味津々。自分で組むのには少し修行が必要かな



ホイール&タイヤの装着作業は、まどかちゃんが86を購入したGR Garage日進竹の山をお願いした。カスタマイズに精通した頼れるスタッフが揃っている店舗なのだ



クリスタルチタン

マットブラック

レースゴールド

マットグラファイトシルバー

Ultraleggera [86&BRZ用サイズ]

SIZE	INSET	カラー	価格(税込)
7.0x16	35	マットブラック、クリスタルチタン	4万8400円
7.5x17	35	マットグラファイトシルバー、クリスタルチタン	5万5000円
7.5x17	48	マットグラファイトシルバー、レースゴールド	5万5000円
8.0x17	35	マットブラック、クリスタルチタン	5万6100円
8.0x17	48	クリスタルチタン、レースゴールド	5万6100円
7.5x18	48	マットグラファイトシルバー	7万400円
8.0x18	35	マットブラック、クリスタルチタン	7万1500円
8.0x18	48	マットブラック、クリスタルチタン、レースゴールド	7万1500円

TMGが製造販売したCS-R3にも Ultraleggeraが採用されていた

TMG (現トヨタ・ガズーレーシング・ヨーロッパ) がラリーベース車両として販売していたTMG CS-R3にもUltraleggeraが採用されていた。CS-R3は、FIAが定める車両規定R3に合致したラリーカー。OZホイールの高性能を証明するひとつの要因とも言える



加速感が良くなりました

ディレッツァDZ102を装着!!



「タイヤはダンロップのディレッツァDZ102を選びました。私が乗っているラリー車がダンロップタイヤを装着しているので、チームのみなさんに相談して、このタイヤに決めました。純正タイヤからの交換後は、以前と同じようにアクセルを踏んでも、前へ進む感じが強くなった感じがします。それでいて静か。乗り心地も良くなりました」



F1マシンが採用していたホイール(左)のデザインをベースに開発されたUltraleggera(右)。こうやって並べてみると、たしかに共通のアイデンティティを感じる

86&BRZ NEW WHEEL INTRODUCTION



装着ホイール: OZ Racing Ultraleggera (サイズ: 8.0x17 IN48) クリスタルチタン
装着タイヤ: DUNLOP DIREZZA DZ102 (サイズ: 225/45R17)



スポークの内側に空気を整流するフラップ形状のパーツがセットされている。薄くてなだらかなこの形状をアルミで製作するのは不可能。軽くて耐久性に優れた樹脂で製作されている



OZ Racing Superturismo Aero

ホイールにエアロを装着する新発想!!
なんとF1の技術を応用している

文・写真◎芝 修



走行時における空気の流れがシミュレーションできる風洞実験。空気抵抗を抑えるためのボディ開発ではおなじみだが、OZは初めてアフターマーケット用ホイールに取り入れた。ホイールにフラップを装着することでホイールの横を走行風がスムーズに流れ、バンパーのダクトから入った走行風が積極的にホイールから抜けているのが分かる



OZが製作したF1用ホイールには空気抵抗を低減してブレーキを冷却するためのフラップが装着されている。このホイールディスク面をストリート用にアレンジしたのがスーパーツーリスモ・アエロだ

世界特許取得済みの 業界初のシステムを採用

このホイールのリム内側にはフラップ形状の樹脂製パーツが装着されている。この役割はホイールの横を流れていく走行風を整流して、ホイールの内側にこもったブレーキ系からの熱を放出させるためのもの。OZが業界初となる風洞実験を導入して新たに開発したスーパーツーリスモアエロだ。

OZはF1やWRC、インディ、フォーミュラEと長年に渡って数多くのモータースポーツに携わり強度、剛性、軽量化……とホイールに求められるあらゆる機能性を追求してきた。その機能性のなかでOZが注目したのがクルマのボディデザインで追求されてきた空気力学。ホイールのディスクデザインによって走行風の流れをコントロールすることでプ

レーキクーリング効果、空気抵抗軽減効果が高まるのだ。OZでは空気力学を極めたホイールをF1に投入して輝かしい成績を残してきた。そして過酷なサーキットで蓄積してきた空気力学をアフターマーケットホイール向けにアレンジしたのがスーパーツーリスモ・アエロなのだ。このホイールに採用している樹脂製パーツはOZならではのシステムとして世界特許を取得している。

またホイール自体は従来からあるスーパーツーリスモに樹脂製パーツを装着しただけではない。ホイール本体も進化している。インナーリムに採用したのはアルミ組織を均一に引き延ばして鍛造同等の強度と剛性を生み出すフォロフォーミング製法。そしてスポークもよりシャープにデザインされた第四世代のスーパーツーリスモへと進化している。

電気自動車専用モデル

Superturismo Aero-e (2021年モデル)



このスーパーツーリスモアエロ-HLTの次に控えているのは電気自動車専用モデルのグランツーリスモ・アエロ-eだ。電気自動車にはフットブレーキとは別の原理で減速する回生ブレーキが採用されているため、ブレーキ系への負担は少なく発熱量も小さい。そこでディスク部全体にカバーを装着して空気抵抗の軽減に特化したデザインを採用している。